

世界に冠たる環境技術の確立を

(社)日本環境衛生施設工業会
会長 藤村 宏幸

皆さんこんばんは。ただいま紹介にあずかりました藤村でございます。先程おこなわれました第46回の総会で会長に再任されました。誠に非力ではございますが、精いっぱい務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

本日は大変お忙しい中、環境省、学識経験者、そして関係諸団体の皆様方、この懇親会においていただきまして、誠にありがとうございます。高い壇から失礼ではございますが、ごあいさつを申し上げます。日ごろからこの工業会が大変お世話になっております。心から御礼申し上げます。

この工業会は持続可能な社会の構築に向かって、各参加企業が、新しい技術の開発、そしてノウハウの蓄積を今、一生懸命に行っている段階でございます。持続可能な技術というのは従来とは少し違って、資源生産性といいますか、資源あるいは環境を分母にして利便性をどう評価していくかという技術ではないかと思っております。リサイクルとし



てサーマル、ケミカル、マテリアルリサイクルとか、バイオマスリファイナリーを中心とした新しいバイオマス産業の創出とか、まさに新しい技術の開発を急がれている分野でございます、日夜研鑽いたしているところでございます。

新しい技術の開発は優秀な技術者がもちろん必要でございます。そしてその技術を確立するために多大な資金を必要といたしております。そういう開発を通じまして世界に冠たる日本の環境産業、環境技術を確立したい。それは持続的でなければならない。持続的な社会に対して持続的な研究を進められなければならないと思っております。

そういう意味で、今回の廃棄物処理法改正案の中に環境施設の目標値、それを計画的に遂行していくという趣旨での施設整備計画の策定をする法案を準備されていると聞いております。これはまさに21世紀は新しい時代でございますので、きちんとした目標に向かって着実に歩を進めていかな

くではないという点からしますと、本当に素晴らしいことで、環境省の皆さん方、多大な努力をされていると聞いております。ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

今日は、大変たくさんの方にお集まりいただい

ております。時間も限られていると思いますが、どうぞ懇親を深めていただきまして、今年度も活発に技術開発、そしてノウハウの蓄積に向かって努力していきたいと思ひます。どうも本日はありがとうございました。